「瓦版」



2020. April. 1 在仙台カンボジア王国名誉領事館

Para-Sports in Cambodia!

認定特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド(以下、HG)は、1996年シェムリアップで開催された第一回アンコールワット国際ハーフマラソン(以下、AWHM)に HG代表理事である元オリンピックメダリストの有森裕子氏が招待選手として参加したことがきっかけとなり、1998年に設立されました。AWHMは地雷被害者の支援活動として参加費を義手・義足作製支援のために寄付する等、カンボジアの障がい者の



ためのチャリティーマラソン大会として開催されてきました。HG は AWHM の運営支援を行い、カンボジアパラリンピック委員会と協力し、カンボジアパラ陸上競技会の開催、日本の専門家を招聘してトレーニングワークショップを行う等、主にカンボジアパラ陸上の支援を中心に活動しています。今後は、まだまだ少ないパラスポーツ人口を増やしていき、東京パラリンピックへの出場、ASEAN Para Games(東南アジア大会)等国際大会で多くのメダルを獲れるよう、カンボジアパラスポーツの発展に寄与できる活動をしていき

ます。2023 年にカンボジアで開催される東南アジア大会でスムーズな運営ができるよう、そして将来的にカンボジアのパラリンピック委員会が自立した大会運営を行っていけるよう、スタッフの育成にも力を入れています。

カンボジアではパラリンピック選手として陸上選手が増えてきている一方で、カンボジア国内でのパラ陸上短距離の大会がなく、選手の試合経験が少ないため、国際大会では他国との差がありました。ここで、パラ陸上の注目選手を2名紹介したいと思います。

1人目は車いすのヴァン・ヴォン (Van Vun) 選手。1986年生まれの33歳。幼少期にポリオウィルスに感染し、下半身麻痺となる。2016年リオパラリンピックではユニバーサリティワイルドカード枠(*)で出場した。2017年



には HG の事業で岡山でのパラキャンプに参加し、パラリンピアンの松永仁志氏より指導を受けた。現在は 100m、200m、400mで東京パラリンピック出場を目指している。



2人目は、義足のチン・パン (Chim Phan)選手。1968年生まれの51歳。26歳の時、軍隊で地雷撤去作業中に地雷を踏んでしまったため、右足のひざ下を失う。28歳の時初めてスポーツ大会に参加し、400mで1位を獲得したことから陸上を本格的に始め、数々の国際大会でメダルを獲得。そろそろ引退を考えているようだが、最後に東京パラリンピックを目指している。種目は100m、200m、400m。応援よろしくお願いいたします!

提供 NyoNyum

(*) ユニバーサリティワイルドカード枠…パラリンピックの出場資格枠を競技成績で得られなかったか、1 名のみの選手枠 しか得られなかった各国のパラリンピック委員会に対して付与される出場枠。パラリンピックの基本理念から、選手が最大限 参加できることを保証するために設けられた参加枠割り当て方法。



日本語学校生

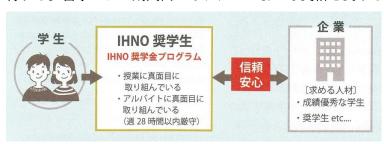
日本で志高く頑張る留学生を応援!

日本の少子化が進む中、日本語学校や専門学校、大学などは、外 国人留学生の誘致に力を入れています。留学生の学ぶ環境を支援す るための新たな取り組みが始まりました。

一般財団法人国際人材交流支援機構 (IHNO) は、2018 年 1 月 に発足した、日本への留学生に対する支援を行う団体。

高い志を持って来日するも、学費や生活費を補うためにアルバイトを余儀なくされる留学生も少なくない。しかし日本では入国管理法で、留学ビザの学生は週28時間以内の就労しか認められていない。そんな留学生をサポートするため、上限月3万円の奨学金を給

付する。留学ビザの期間内であればいつまでも支給を受けることができる。





プノンペン日本人学校×ANA

中学部の生徒を対象とした今回の校外学習。航空業界を取り 巻く人々のお仕事を見学し、「働くとは?」を考えました。

今回参加したのはプノンペン日本人学校中学部1年生から3年生の5名。まずはANAプノンペン支店の事務所で、どれほど多くの人が航空業界に携わっているのかを勉強。人々の仕事が積み重なってようやく飛行機は飛べること、そして関わるすべての人が乗客の「安全」を第一に考えて働いていることを教わった。



飛行機が滑走路に着陸し、積み下ろされた荷物が乗客の手元に届くまで、職員の仕事を間近で見学した。その 後乗客のいなくなった機体に入り、駐機場間を移動するところを機内で体感するなど、貴重な体験をした。

半日に及ぶ航空教室は、参加生徒から今回案内をしてくれた ANA 職員へのお礼の言葉によって終了。「スタッフの皆さんがお客様の安全を考えて仕事をしていることがわかった」「誇れる仕事に自分も就きたい」と感想を残した生徒たち。きっと将来、この日を思い出す時が来るのだろう。

フルーツ



発行:在仙台カンボジア王国名誉領事館 仙台市青葉区上杉1丁目6番6号 2022-393-4861

仙台あれこれ・・・

こけしゅしまぬき

www.shimanuki.co.jp 仙台市青葉区一番町 3-1-17 022-223-2370



作並

仙台の作並温泉が発祥の地である伝統こけし。大きな頭と子どもが握れる程の細く 真直ぐな胴、そして「カニ菊」と呼ばれる胴文様が特徴です。同系の胞吉(えなきち) 型と合わせ、古い時代のこけしの形を伝えています。

鳴子

遠刈田、土湯と共に伝統こけし発祥の地のひとつ。はめ込み式で、頭は首を回すと キイキイと音が鳴り、水引で結んだような前髪が特徴。胴は中ほどが細く、肩と裾が 広がった形で、菊花など華やかな模様が描かれている。

遠刈田

鳴子・土湯とともに、伝統こけし発祥の地とされる遠刈田こけし。頭が大きく、 それに比べ胴は細く真直な円柱状である。頭部の華麗な放射線状の手絡や、菊や梅 などの様式化された胴文様が美しい。

弥治郎

こけし発祥の地とされる鳴子や遠刈田よりは新しいと言われる。差し込み式の頭は大きく、ベレー帽のような多色のろくろ模様が特徴。胴にくびれがある女性的な形で、ろくろ模様の上に、衿や裾がシンプルに描かれている。



御主人からのメッセージ



昭和八年八月七日 「しまぬき」七夕飾り

明治25年「しまぬき」はみちのく仙台で創業しました。当時は工芸品や雑貨を扱うようなお店ではなくこけしや、仙台・東北の工芸品を扱い始めたのは、それからしばらくの事。「しまぬき」では変わることなく、贈り物や記念品、思い出の品という形でみちのくの魅力を皆様へ伝え続けています。

社名にもある「こけし」は、こどもたちの玩具としてみちのくに生まれました。その「こけし」も今では立派な工芸品。結婚式や新築のお祝い、コレクションとしての用途も時代とともに増えていきました。また海外からは、特徴ある日本の文化として高く評価されています。こけしのほかに「しまぬき」では、玉虫塗や仙台堆朱、仙台箪笥など仙台をはじめ、東北を代表する工芸品を数多く取り扱っております。また、みちのくの文化を広く伝えるため「明かりこけし」や「仙臺の刻(せんだいのとき)」「仙臺弦月」など、仙台の文化を感じさせるオリジナル商品も「しまぬき」では数多く創り出してきました。

仙台を贈ろう!みちのくを飾ろう!東北を楽しもう!

「しまぬき」は日常の様々なシーンで活躍する品々を通じて、みちのく仙台の文化をこれからも伝え続けてまいります。